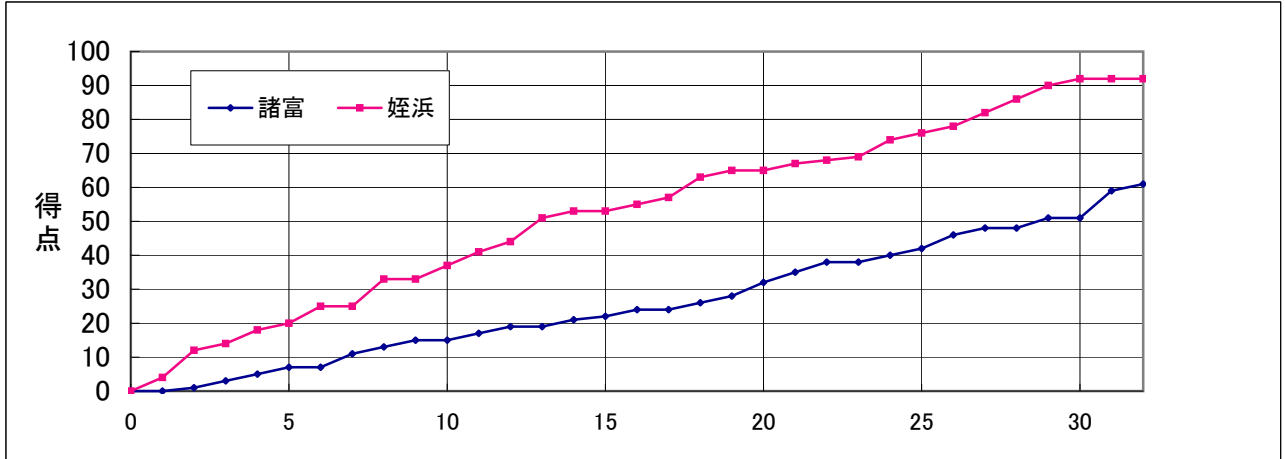


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	B4	13:30	男子1回戦															
	期日	2010年(平成22年)3月13日(土)	諸富 61 (佐賀1位) ●	<table border="1"> <tr><td>13</td><td>—</td><td>33</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>22</td></tr> <tr><td>16</td><td>—</td><td>19</td></tr> <tr><td>21</td><td>—</td><td>18</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	13	—	33	11	—	22	16	—	19	21	—	18	—	—	—
				13	—	33													
11	—	22																	
16	—	19																	
21	—	18																	
—	—	—																	
会場	大分県立総合体育館	92 姪浜 ○ (福岡2位)																	

主審 野田 大樹 副審 大森 亮二



1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
02:36	—	—	—	—	—

諸富							
No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F	
4	* 中島 大瑛 (C)	8	0	4	0	2	
5	* 金田 新平	12	0	6	0	4	
6	* 磯部 圭司	8	0	3	2	3	
7	市丸 寛葵	—	—	—	—	—	
8	* 池内 崇将	15	0	6	3	2	
9	梅山 晃兵	—	—	—	—	—	
10	山田 圭晃	0	0	0	0	3	
11	西原 亮也	—	—	—	—	—	
12	諸隈 聖也	—	—	—	—	—	
13	富崎 太一	—	—	—	—	—	
14	* 吉田 諒介	18	1	5	5	1	
15	松永 拓巳	—	—	—	—	—	
16	吉田 郁人	—	—	—	—	—	
17	高近 雅人	—	—	—	—	—	
18	秋庭 駿	—	—	—	—	—	
コーチ	小松 幹生						
合計		61	1	24	10	15	

1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
08:32	—	—	—	—	—

姪浜							
No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F	
4	* 柿内 輝心 (C)	21	0	9	3	1	
5	日野 大嵩	8	0	4	0	2	
6	加倉 聖大	0	0	0	0	0	
7	* 野口 裕太郎	6	0	2	2	1	
8	北岡 翔	0	0	0	0	1	
9	* 古賀 達典	9	0	4	1	0	
10	* 入山 宥昌	6	0	3	0	1	
11	* 山崎 拓	14	4	1	0	1	
12	清水 駿佑	0	0	0	0	0	
13	本土 聖也	11	1	4	0	1	
14	久我 蓮	0	0	0	0	0	
15	浦田 一郎	15	0	6	3	4	
16	土橋 大樹	0	0	0	0	0	
17	原 直輝	2	0	1	0	0	
18	幾尾 和貴	0	0	0	0	1	
コーチ	鶴我 隆博						
合計		92	5	34	9	13	

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

戦評

諸富はマンツーマン、姪浜はオールコートマンツーマンでスタート。出だし、姪浜#4楠内がファウルをもらい、フリースローを2本とも沈め先制点を奪う。#11山崎のドライブや#4楠内のバスケットカウントやミドルシュート、#11山崎の3Pなどでリードを奪う。この時点で12-1となりたまま諸富がタイムアウトを取る。ゲーム再開直後、諸富が#8池内、#6磯部のドライブで反撃を試みる。しかし、姪浜#4楠内の連続得点でその差はなかなか詰まらない。その後も姪浜の厳しいディフェンスからの速攻などで加点していき、33-13姪浜リードで1Qを終了する。

第2Qは、諸富#8池内のシュートで始まる。対する姪浜は#5日野のリバウンドシュート、#4楠内のミドルシュートなどで着実に加点していく。姪浜の厳しいディフェンスの中、何とか得点しているが諸富はリングに向かって責めていくがなかなか得点できず逆に姪浜に速攻を許し、点差は開いていく。前半終了間際、諸富も#5金田や#14吉田のドライブで得点し反撃を試みるが、より早い攻めで得点を重ねていく姪浜が55-24で前半を終了する。

第3Q姪浜は#9古賀#10入山の得点で加点。負けじと諸富#14吉田のミドルシュートで食ひ下がる。しかし、姪浜は#5日野のポストプレー、#15浦田のバスケットカウントにより、じりじりと差を広げる。ここから諸富はがんばりを見せ、#14吉田・#5金田のミドルシュートや#6磯部のゴール下からのシュートが決まりだす。ここから一転してオールコートマンツーマンを引いた諸富は、攻撃にもリズムが生まれ、#14吉田の3P、#8池内がファウルをもらい2本沈め、流れを引き寄せようとするが、第3Qタイムアップ。この時点で74-40。

第4Q、お互い少し精彩に欠き、なかなか点が入らない時間が続く。しかし、その均衡を破ったのは諸富の#4中島のミドルシュートやドライブでの得点であり、一方、姪浜は#9古賀・#17原のミドルシュートなどで攻撃の手を緩めず得点を重ねていく。その後は、お互い点の取り合いで、諸富は#8池内のミドルシュート#14吉田のドライブ#4中島の速攻からの得点で追い上げようとする。姪浜は#7野口クラッチシュート#9古賀#15浦田のゴール下のシュートなどで追い上げを絶とうとする。最後まで諦めを見せずにがんばった諸富であったが、それを上回る粘り強いバスケットを見せた姪浜が92-61で勝利する。

© 2010 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.0063

記載者 石田、市川 (所属) 大分県バスケットボール協会